記者発表資料

令和7年2月 20 日
国土交通省　東北地方整備局
福島河川国道事務所

国道4号　福島北道路の
道路計画検討に関する意見聴取を実施します。
～みなさまのご意見をお聞かせください～

国道4号　福島北道路における道路計画の検討にあたり、地域のみなさまや道路を利用される方が重視される項目について、ご意見をお伺いする**アンケート調査及びヒアリング調査**を行いますので、ご協力をお願いいたします。

アンケート調査について

〇対象区間：国道4号　福島北道路
〇調査期間：令和7年2月21日（金）～令和7年4月30日（水）
〇調査内容：対象区間の道路計画の検討にあたり、地域のみなさまや道路を利用される方が重視する項目について、意見を把握するために実施します。

調査方法	実施方法	実施期間
インターネット（WEB）	福島河川国道事務所ホームページに掲載します。 https://www.thr.mlit.go.jp/fukushima/kitadouro	**令和7年2月 21 日（金） ～ 令和7年4月30日（水）**
返信用はがき	①　別紙の対象区間沿線地域にお住まいの方には、全世帯に対して郵送にて配布します。 ②　別紙の周辺地域（対象区間沿線地域を除く）にお住まいの方には、抽出した世帯に対し、郵送にて配布します。 ③　対象区間を利用する事業者へ郵送配布します。 ④　各自治体の公共施設等にアンケート調査票と回収ボックスを設置します。（設置箇所は別紙参照）	**令和7年3月19日（水） ～ 令和7年4月30日（水）**

ヒアリング調査について

〇調査期間：令和7年2月 21 日（金）～令和7年4月30日（水）
〇対　　象：対象区間の沿線地域及び広域的な利用が考えられる地域の自治体、団体、事業者。
〇調査内容：対象区間の道路計画の検討にあたり、業務等で道路を利用される際に重視する項目について、意見を把握するために実施します。
※なお、対面での聞き取りを予定していますが、調査票送付と電話聞き取りによる対応も可能です。

【発表記者会：福島県政記者クラブ、福島市政記者クラブ】

【お問い合わせ先】
国土交通省　東北地方整備局　福島河川国道事務所
TEL 024-546-4331（代表）　E-mail：thr-fukushima@mlit.go.jp
副所長（道路担当）　岩渕　賢一　（内線　205）
調　査　課　長　　松山　智　　（内線　451）

別　紙

1. アンケート調査票・返信用はがきの配布

①調査対象地域にお住まいの方

・対 象 地 域：福島市、伊達市、桑折町、国見町

・配 布 方 法：郵便にて配布を行います。

・配布予定日：令和7年3月19日（水）～

②上記以外の方

下表【調査票・回収ボックス設置箇所一覧】に示す公共機関、道の駅等にアンケート調査票・返信用はがきと回収ボックスを設置します。

また、インターネットによる回答も可能です。

2. アンケートの回答方法

①インターネットによる回答

Webで回答する　以下のどちらかの方法でお答えください。

① スマートフォンから

スマートフォンで
右の二次元コードから
アクセスしてください。
回答フォームが開きます。

② パソコンから

「福島北道路アンケート」
で検索いただくか、
福島河川国道事務所
ホームページ内の
バナーをクリックしてください。

福島北道路アンケート

実施期間 令和7年 4/30（水）まで　ご意見募集中！

国道4号 福島北道路

アンケートページURL：https://www.thr.mlit.go.jp/fukushima/kitadouro

②返信用はがきによる回答

返信用はがきに回答をご記入いただき、お近くの郵便ポスト、または下表【調査票・回収ボックス設置箇所一覧】に示す公共機関、道の駅等の回収ボックスへ投函してください。

【調査票・回収ボックス設置箇所一覧】

	設置場所
国土交通省	・福島河川国道事務所 ・福島国道維持出張所 ・東北中央道維持出張所
福島県	・福島県庁、県北建設事務所
自治体	・福島市役所（本庁、全 18 支所） ・伊達市役所（本庁、伊達総合支所） ・桑折町役場 ・国見町役場
公民館	・桑折町中央公民館
公共施設 民間施設	・福島駅西口複合施設「コラッセふくしま」 ・福島市アクティブシニアセンター「AOZ」 ・イオン福島
道の駅	・道の駅　ふくしま ・道の駅　国見　あつかしの郷 ・道の駅　伊達の郷　りょうぜん ・道の駅　安達

【調査対象地域及び対象区間】

Web回答はこちらから

『道路づくりは地域の皆さんの意見が必要です』

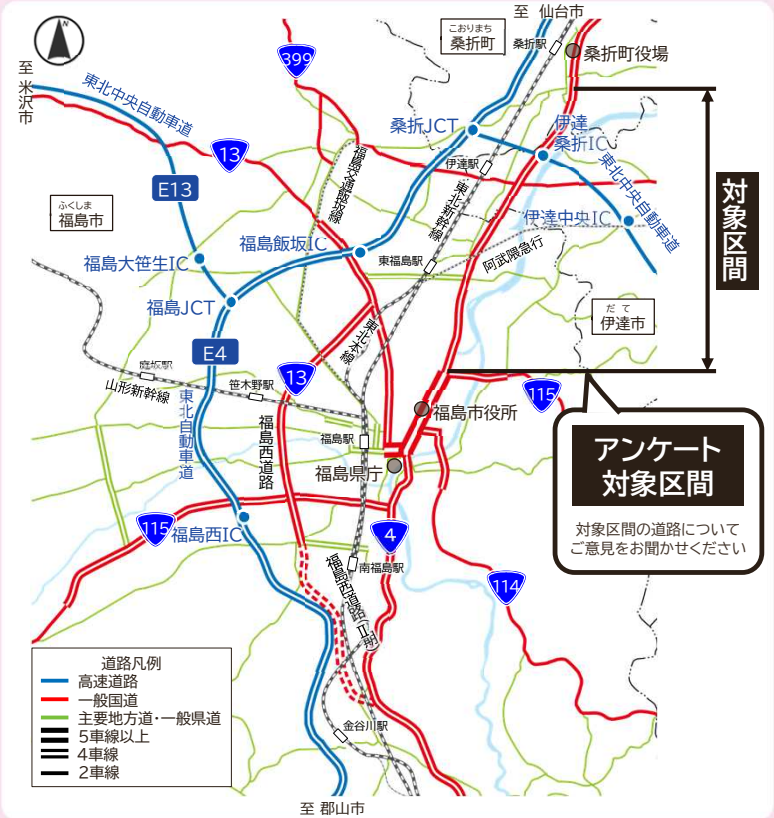
国道4号 福島北道路（ふくしまきた）

道路計画検討に関する第2回アンケート調査

全4問（約4分程度）

- 福島市北部から桑折町の国道4号（**対象区間**）は、通勤や買物等の近隣の移動や物流交通など広範囲の交通が集中し、渋滞や事故などの課題を抱えています。
- 本アンケートは、**対象区間**の道路計画検討にあたり、対応方針（ルート帯）を検討する上で重視すべき項目についてご意見をお聞きするために行う調査です。

※アンケート調査は、環境影響評価法第三条の七に基づく配慮書の案についての意見聴取手続きを兼ねています。
※ご意見は統計的に処理し、住所・氏名や個人の意見等が特定されることはございません。



今回のアンケートと道路計画の流れ

- 地域や道路交通の現状と課題の整理
- アンケート：道路交通・地域の課題把握
- 政策目標の設定 対応方針案の検討
- 今回 アンケート：ルート案に対する意見の把握
- 対応方針案の決定

お問い合わせ

国土交通省 東北地方整備局 福島河川国道事務所 調査課

TEL 024-539-6128（平日 9:00～17:00）

Email thr-fukushima@mlit.go.jp

アンケートのご回答は **令和7年4月30日（水）**までにお願いします。

ご意見を踏まえて、ルート帯を検討する上で重視すべき事項について、以下の8項目を考えています。

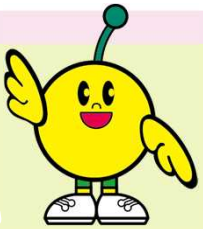
政策目標

- A 必要な交通容量の確保
- B 安全な交通環境の確保
- C 円滑な物流ルートの確保
- D 信頼性の高い救急搬送環境の確保

その他配慮事項

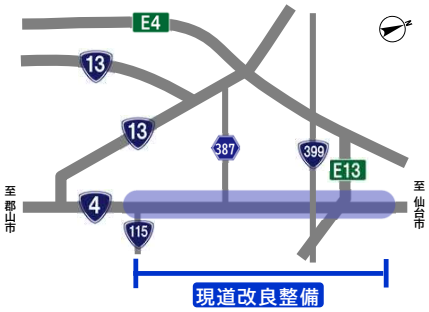
- E 生活環境
- F 自然環境
- G 工事の影響
- H 経済性

地域や道路の課題解消のため、2つの案を立案しました



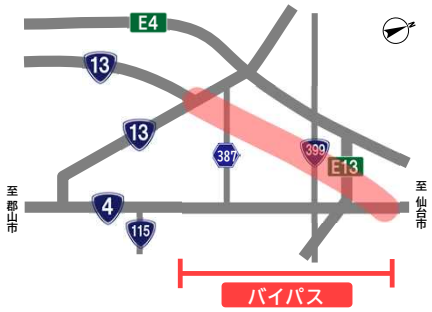
福島県復興シンボルキャラクター キビタン

A案 現道改良案



現道を改良（主要交差点の立体化及び混雑区間の副道整備）することで現道機能強化を図り、課題解消を図る案

B案 バイパス案



全線をバイパスで整備し、課題解消を図る案
国道13号を含めた国道4号（福島市中心部）を迂回するバイパスを形成

詳細は裏面をご覧ください >>

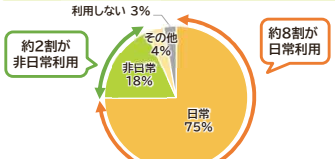
＼ たくさんのご回答ありがとうございました！ ／

第1回アンケート結果の概要

詳細はHPで紹介中

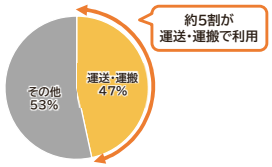
●対象区間の利用目的

住民・道路利用者 回答票数 16,741 票



※日 常 的 利 用：「仕事」、「通勤」、「通学」、「通院」、「家事買い物など」、「送迎」の合計
非日常的利用：「レジャー・ドライブなど」
そ　の　他：「その他」、「無回答」の合計

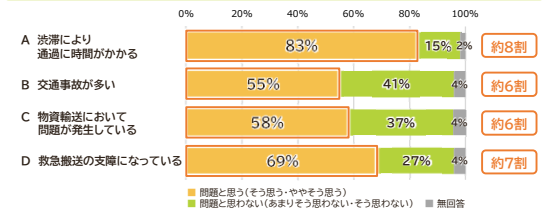
事 業 者 回答票数 425 票



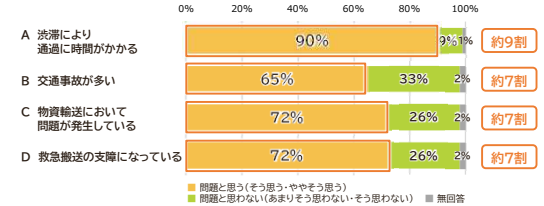
※その他:「営業」、「送迎」、「旅客」、「利用しない」の合計

●課題の認識

住民・道路利用者 回答票数 16,741 票



事 業 者 回答票数 425 票



アンケート結果を踏まえた課題の再整理

A 渋滞

▶信号交差点の増加や沿道施設等の立地に伴う出入り車両の増加によって走行速度が低下している等の意見がありました。

B 事故

▶**施設からの出入り交通や無理な車線変更**があり、急ブレーキや接触事故等の危険を感じる等の意見がありました。

C 産業・物流

▶遅れないよう時間に余裕を持たせると、ドライバーの拘束時間が長くなり負担が増加する等の意見がありました。

D 医療

▶交差点が多く渋滞しているため、救急搬送にも支障がある等の意見がありました。

対応方針（ルート帯）の考え方

A案 現道改良案　現道を改良（主要交差点の立体化及び混雑区間の副道整備）することで現道機能強化を図り、課題解消を図る案です。

B案 バイパス案　全線をバイパスで整備し、課題解消を図る案です。国道13号を含めた国道4号（福島市中心部）を迂回するバイパスを形成します。

ルート案			A案 現道改良案	B案 バイパス案
ルート概要			現道を改良（主要交差点の立体化及び混雑区間の副道整備）ことで現道機能強化を図り、課題解消を図る案	全線をバイパスで整備し、課題解消を図る案 国道13号を含めた国道4号（福島市中心部）を迂回するバイパスを形成
政策目標	必要な交通容量の確保	交通容量の確保	・現道改良により、信号交差点が集約され、交通容量が確保される。	・バイパス整備により、交通容量が確保される。
政策目標	安全な交通環境の確保	安全な交通環境の確保	・現道改良により、沿道出入りが集約され、渋滞に起因した事故が減少し、交通環境が改善する。	・バイパス整備により、安全な交通環境が確保されるとともに、国道4号では渋滞に起因した事故が減少し、交通環境が改善する。
政策目標	円滑な物流ルートの確保	物流経路の安定性向上	・現道改良により、沿道出入りが集約され渋滞が緩和し、物流ルートの安定性が向上するが、新たな物流ルートは形成されない。	・バイパス整備により、現道の渋滞緩和を図り安定性向上を図るとともに、新たな物流ルートが形成される。
政策目標	信頼性の高い救急搬送環境の確保	救急搬送の安定性と信頼性向上	・主要交差点の立体化により、渋滞に伴う加減速が改善され、救急搬送の安定性は向上するが救急搬送ルートの選択肢は拡大しない。	・バイパス整備により、渋滞が緩和され、救急搬送の安定性が向上するとともに、救急搬送ルートの選択肢が拡大し、信頼性も向上する。
その他配慮事項	生活環境	生活環境への影響（集落・市街地の大気質・騒音）	・副道の整備により発生源から離れることで低減効果は期待できるものの交通量の転換が図られないため、現道の環境改善は限定的。	・バイパス整備により、交通量がバイパスに転換することで、現道の沿道環境が改善。
その他配慮事項	自然環境	自然環境への影響（動物、植物、生態系等）	・現道改良のため、地形改変が小さく自然環境への影響は小さい。	・バイパス整備のため、地形改変が発生し自然環境への影響が懸念される。
その他配慮事項	工事の影響	現道交通への影響	・全線が現道拡幅のため長い期間交通規制が必要となるため、現道交通への影響は大きい。	・バイパス整備のため、施工時の現道交通への影響は小さい。
その他配慮事項	経済性	整備に関する費用	約1,100～1,300億円	約1,000～1,200億円

※現時点の概算であり、今後のルート検討、土地利用状況等により金額が変更となる場合がある